失敗してもいい、遅くてもいい。少しずつ進んで、ものづくりの楽しさを知ってもらいたい。

★輝いてます

酒井明治（さかいめいじ）さん

（安城市少年少女発明クラブ理事長・62歳）

安城市少年少女発明クラブ概要

平成11年：子ども工作教室を前身として安城市少年少女発明クラブが中部公民館を拠点にスタート（南部・西部公民館でも活動中）

対象：市内在住の小学３年生～中学３年生

クラブ員数：70人　指導員数：36人

出品展示会：発明と工夫展、企業展、かがくの広場展など

※３月にクラブ員募集予定有り

発明クラブではどんなことを？

指導員として月に3回、3公民館で活動に参加しています。夏休み・冬休みには活動回数も増えます。工作をしたり、ロボットを作ったりするお手伝いをしています。

具体的にはどのようなものですか？

昨年の「ものづくり体験教室」にもあったように、ワームマシンづくりなどです。尺取虫（しゃくとりむし）のような動きをするマシンでタイヤやギア、モーターなどがキットに入っていて、自由な発想で組み立てて速さを競わせるものです。

では、組み立てを手伝うのですか？

違います。一緒になって考えるんです。ああしろこうしろと言うのは簡単ですが、そうしてしまうと子どもたちは何も考えられません。クラブ員自らが自由に考えられるようなヒントを与えるのです。失敗してもいいんですよ。遅くてもいいんです。何度でも挑戦して、少しづつ進んでいけばいいんです。待って待って…、辛抱ですね。指導員はあくまでも裏方ですよ。

それに、クラブではただ物を組み立てるだけではないんです。たとえばネジやボルト、ノコギリにしても、何のためにできたのか、どうしてこのような形になったのかということ、道具の歴史や材質なども追求します。指導員も一緒に勉強していますよ。

クラブの意義と今後の展開は？

今の子どもは忙しいですよ。勉強や部活動、そのほかに塾にも行くでしょう。だからちょっとでもその合間の息抜きというか、自分がやりたいと思う事、集中して何かをできる時間というのが必要なんだと思います。

そして、子どもたちに夢を持ってもらいたい、ものづくりの楽しさを知ってもらいたいと思うんです。

4月から新たに和泉町に活動拠点を構え、活動日を増やすことを計画しています。児童クラブのような存在でもいいと思ってます。楽しんで来てもらいたいですね。

筆者のつぶやき

「活動の成果は一朝一夕に現れるものではない。長い目で見て子どもたちが伸び伸びと、創造性豊かに育っていくのを楽しみにしています。そして、そのためには、地域住民や企業の協力と指導員の意欲が大切です」と話し、多くの人の協力に感謝していた酒井さん。たくさんの人たちに見守られて育っていく子どもたちは幸せですね。きっといつか恩返しがありますよ。発明王の誕生とか…ね。

※本紙18ページ「未来の主役」コーナーも併せてご覧ください。